

教育相談課だより No.11

学校再開に向けて②

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、想定外のこと
が起きる中、一般社会の中で起きていることをヒントに学校再
開に向けての留意点を、教育相談的な視点で考えてみたいと思
います。

〈同調圧力〉

外出自粛が叫ばれていた中、「自粛警察」なる言葉もマスコミに取り上げ
られていました。「自粛警察」とは、外出や営業などの自粛要請に応じない
個人や店舗に対して、私的な取り締まりを行う一般の人のことを指すとされ
ています。世の中をよくしたいとの思いから、過剰に自粛を強要しようとす
る人がいるとされていますが、こうした動きは学校でも起きることが考えられます。



例えば、これから暑くなるにつれ、うっとうしくなると思われるマスクですが、このマスクをし
ない児童生徒に対しマスクを付けさせるために、あるいは、距離感の近い児童生徒を近づかないよ
うにさせるために、必要以上に圧力をかけるような言動をすることが考えられます。

こうした行動は、「同調圧力」にも関係があると思われる。「同調圧力」とは、“集団におい
て少数意見をもつ人に対して、周囲の人と同じように考え行動するように、暗黙のうちに強制する
こと”（コトバンク）です。もともと、日本人は協調性を重んじる傾向が強いとされています。協
調性とは、“他の人とうまくやっていける傾向や性質”（コトバンク）のことですが、協調性を大
切にするが故、いつしか「他者と一緒の行動をするべきだ」と考えがちになるのかもしれない。

「同調圧力」が働くとき、児童生徒の生活で気をつけなければならないことに、いじめがありま
す。いじめが起きているときの人間関係は、4層構造になっている（1986：森田洋司）と言われ
ています。いじめる側といじめられる側だけでなく、その周囲には、観衆と傍観者がいるのです。
学校生活を送る上では、多少のいざこざは生じるものかもしれませんが、それがいじめに発展するかどう
かは、その集団の人間関係によるところが大きいと思われる。「悪いと分かっているにもかかわらず
制止できない」「一緒にやってしまう」などの集団心理を、かつてビートたけしさんは、「赤信号、みんな
で渡れば怖くない」と表現したことは、有名な話です。

まだ人間関係が醸成されていない中、また、新型コロナウイルス感染症のために、児童生徒の心
理面も不安定な中での学校再開ですので、いつも以上に児童生徒をよく観察し、話をよく聴く意識
を高めることが必要になってくると思われる。